

# D—11 生活改善総合対策樹立のための調査研究 について——学校教育費，保健衛生費等 および総合対策研究全体のまとめ——

東京家政学院大	松平	友子
東京都立立川短大	○桑田	百代
農林省生活改善課	山本	松代
〃	○水沼	有

## 1. 研究の目的

本研究については昨年度中間報告をしたところであるが、これに引き続き標準家族世帯農家（6名2タイプ）における家計消費構造について、その好ましいあり方はどのようなものであるか、その最低基準を求めるのが目的である。即ち物と金額の両面から具体的によい生活に必要なものをつみあげ、農家家計設計の基準を明らかにし、総合的につりあいのとれた家計設計の型紙を作成する。

2. 方法 昭和36年度以降数名の委員により委員会を構成し、標準家族世帯農家の被服，住居，食物に属さない部分の生活の実態と願望を把握し、その結果に基づいて文献，統計等を参考としつつ質，量による基準原案を作成した。昭和38年度においてはこの基準原案を生活の近代化の進んだ地域の生活改善実行グループ員，生活改良普及員等と共に検討確認し，前記基準原案を修正した。更にこれに基づき，修正した基準原案を昭和38年度の価格（農林省統計調査部調査資料）により費目別金額に換算した。

次に各分科会から提出された費目別金額を合算して，好ましい生活に必要な家計費総額の妥当性や費目間の均こうを検討し，最終的な基準を作成した。

3. 成果 これにより好ましい農家生活に最低必要な消費物資の質量，家計費目間の良いバランス，必要な家計費が明らかになり今後の家計設計指導，農家生活水準の測定のための目安が得られた。